東京ホームタウン大学2020に参加して

# 2020年2月20日（木）開催　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　報告書

**私のまち「東京」で、豊かに生きるには？**

本格的な超高齢社会を迎える2025年まであと5年となり、人と人がつながり、安心して暮らせる地域づくりを応援する東京ホームタウンプロジェクトが、今年も1日限りの「大学」を開校した。5年目となる今回は、ユニークで活発な地域づくりの事例を濃縮してご紹介するとともに、都内の約30の地域団体・NPOが具体的な活動を共有します。後半には、これからシニアになっていく人々が、今から地域と関わる魅力や意義などについて話を聞くことができました。

テーマ１ 「住民」と「専門職」による協議の進め方

高齢化が進展する地域では、専門職による介護や福祉サービスだけでなく、住民同士の助け合い活動や地域住民と専門職の協力が大切になります。
そして、視点や立場の違う住民と専門職が、その違いを乗り越え、それぞれの強みを活かし合うには、協力しつつ役割分担をしていくような話し合いができる協議の場が必要です。

テーマ２ 多様な主体の力を出し合う地域づくり

商店街・福祉事業者・企業など、多様な主体が連携・協働しながら地域づくりを進めていくことを目指し、新たな担い手の巻き込みへのチャレンジが始まっています。住民や地域の事業者などが持つ力を活かし合い、声を掛け合える。そんな地域づくりに向けた調査等から見える、地域への関わりを促す方法とは。多様な主体が連携するにあたって、どのような声のかけ方、連携の進め方が効果的か、実践を通じた報告をいただきます。

テーマ３ フレイル予防講座(お試し編！)

会社等にお勤めのうちから健康や介護予防への意識を高めることは、従業員の活性化や医療費の節減など、職場や企業にも大きなメリットがあります。そこで、今年度、東京都と東京都健康長寿医療センターが中心となって、わずか60分でコンパクトに「フレイル」を理解するための講座プログラムを開発しました。

テーマ４ 誰もがつながり合える場所 -昼下がりのスナック 東京大学店-

地域との関わりを持ってみたい人、地域への新たなつながりを見つけたい人、そんな様々な人と人を、多彩な女性たちが “スナック”スタイルでつなぎます。

テーマ５ アクティブシニアが活躍する地域とは?

シニア世代が、これまでの豊かな経験のなかで培ってきた知見を活かし、自身の得意を活かして地域で活躍できる。高齢者の社会参加を促進することは、高齢者の知恵や経験を社会に活かすために、地域づくりの担い手を増やすために、そしてなによりも、高齢者自身の生きがいづくりに、と、さまざまな効果が期待できます。

テーマ６ 大学生にとっての“ホームタウン”東京

大学など数多くの教育機関が集積していることも、東京というまちの大きな特徴のひとつです。多様な主体が関わる地域づくりを考えるうえで、大学生の若い力を地域づくりに取り入れることで、活動の活性化につながります。同時に、大学側にとっても、地域と連携した生きた学びの機会を創出することは、学生の教育・研究活動にも効果が期待できます。

今年度、津田塾大学総合政策学科との連携により、東京ホームタウンプロジェクトの過去支援先を対象に、支援の成果や団体の活動状況の変化を追うインタビュー調査を実施しました。学生と地域との出会いともなったその調査結果を学生と教員が発表するとともに、大学生が地域と関わる意義や効果的な連携方法、留意点などについて話題提供します。

テーマ７ 身近な地域での生活支援の在り方

高齢者や障害者への生活支援や移動支援に取り組んでいる団体と共に、ニーズの移り変わりを踏まえこれからの活動の展望を描いていきます。

テーマ８ 地域に開かれた「居場所」のつくりかた

空き家や施設の一角などを活用し、地域の誰もが気軽に立ち寄れる開かれた場づくりに取り組む団体から運営の苦労話や工夫について伺います。

【感想】佐藤むつみ　藤田知美　冨澤文絵

大学生からシニア世代と、世代間交流の場となることで新たなエネルギーが生まれていると感じた。仕事だけでなく、自分の生きがい、やりがいを見つけようという意識が高まってきていると感じ、様々な地域での取り組みがモデルとなって更に発展広がっていけるようにしたいと思った。

その中で、一人一人が楽しく取り組めること、〜ねばならないとなってしまうと続かないので、地域そのものが遊園地のように、思い思いのアトラクションで、また希望のアトラクションを作りながら楽しめると良いと感じた。

また、地域の中での様々な取り組みが分断されることなく、繋がっていくと良いと思った。

誰かが提供してくれるのを待つのではなく、皆がそれぞれ持っている力が発揮できる地域を創っていきたいと、改めて決意した。